

日本国際経済学会創立 60 周年記念シンポジウム
アジア経済の新局面—金融危機から 3 年を経過して—

(使用言語 : 英語)

日時 : 2011 年 6 月 11 日 (土) 14:00~17:30

会場 : 龍谷大学 (京都・深草キャンパス) 21 号館 604 教室

金融危機勃発後の世界経済においては、中国を中心としたアジアの回復が著しく、危機克服に貢献してきました。他方、アジアの輸出依存型成長モデルは、いわゆるグローバルインバランス是正の一環として変更を余儀なくされることも考えられ、巨額の資本流入がインフレや資産バブルに繋がる危険性も指摘されています。日本国際経済学会では、創立 60 周年記念シンポジウムにあたり、金融危機から 3 年を経過したアジア経済について、ニュージーランド・タイ・アメリカから第一線の研究者を招聘し、多面的に考察します。

司会 木村福成(慶應義塾大学) 奥村隆平(名古屋大学)

基調講演 14:00~15:30

1. Robert Scollay (University of Auckland, New Zealand)
“Trans Pacific Partnership: Challenges and Potential”
2. Chalongsob Sussangkarn (Thailand Development Research Institute, Thailand)
“Institution Building for Macroeconomic and Financial Cooperation in East Asia”
3. Kar-riu Wong (University of Washington, USA)
“The 2008 Global Financial Crisis and the Chinese Economy”

休憩 15:30~15:45

コメント 15:45~16:30

浦田秀次郎(早稲田大学)
高木信二(大阪大学)
木下俊彦(早稲田大学)

パネル・ディスカッション 16:30~17:30

報告者略歴

- ・ロバート・スコリー(ニュージーランド APEC 研究センター所長)
ヴィクトリア・オークランド大学やケンブリッジ大学にて学ぶ。1979 年からオークランド大学経済学部にて教鞭を執り、1995 年にはニュージーランド APEC 研究センター所長に任命される。専門は、経済統合、特にアジア太平洋地域の地域貿易協定、また多国間の自由化・グローバル化など。
- ・チャランポブ・スッサンカン(タイ開発研究所理事長、前タイ国財務大臣)
ケンブリッジ大学で Ph.D 取得後、カリフォルニア大学バークレー校で教鞭を執る。世界銀行、タイ開発研究所理事長を経て、2007 年 3 月より財務大臣に任命され、2008 年よりタイ開発研究所に戻る。
- ・カーユン・ウォン(アメリカ・ワシントン大学教授)
コロンビア大学で Ph.D 取得後、シアトルのワシントン大学で教鞭を執る。現在 Asia-Pacific Economic Association 会長。主著に、*International Trade in Goods and Factor Mobility*, MIT Press, 1995 (下村耕嗣・大川昌幸・太田博史・小田正雄訳『現代国際貿易論 : 財貿易と要素移動の統合理論』多賀出版,1999 年)。